

9月28日(水)は、津田先生による算数科の研究授業でした。本単元では、高学年につながる簡単な割合で「倍の見方」を学習しました。本時は、4/4時間目です。差では比べられない場合の方法を図、式、言葉を使って説明する学習でした。本時の授業と事後研究の様子をお知らせします。

単元名 「倍の見方」全4時間(東京書籍) 4年1組 津田 友貴 先生
本時の目標：二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を図や式を用いて表現し、差による比較のほかに、倍を使っても比較できることを理解し、説明することができる。
本時における見方・考え方：日常の事象における数量の関係に着目し、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係について図や式を用いてそれらを表現し、説明しようとする。



本時の板書4/4



武田先生は2倍、津田先生は3倍だから記録がのびたのは津田先生だな。

式で書いた自分の考えを説明しています。



自分と友達の考えを共有します。

津田先生による授業のリフレクション

今回の全校研修を通して、対話の目的をはっきりさせることや導入をていねいにするなどたくさんのお話を学びました。対話の目的をはっきりさせるためには具体的な対話の姿をもっと思い浮かべ授業を考えていく必要があると感じました。授業の導入をていねいにするためには子どもたちが個人で考えるための手立てを準備しておくことも必要だと感じました。正解だけを追い求めるのではなく、子どもたちの困り感や疑問から授業を構成していけばもっと授業力が向上していくのではないかと感じました。今回の指導や助言をもとに今後の授業改善に努めていきたいです。

授業参観の視点(3点)に沿ってグループで協議を行い、全体共有しました。(抜粋)

- 1 本単元で身に付けさせたい資質・能力を育成するための主体的・対話的な学習活動の設定
 - 学習規律ができているので対話がグループでスムーズにできている。
 - ▼子ども達に様々な考えを出させたい。また、その考えを子どもの言葉で説明させたい。
 - ▼ペアやグループ活動を何のために行うのか考える必要がある。何に困っているのか、どんなやり方があるのかなどを聞くことが話し合いのよさではないか。
- 2 児童が本気になる問題や課題の工夫
 - ソフトボール投げの実体験から身近な題材を取り上げ、子どもの興味を引く課題設定がよかった。
 - ▼記録の伸び方について、なぜ差で比べられないのか子どもともっと共有しておく必要があった。(差と割合のちがいについて深める)
- 3 「数学的な見方・考え方」を働かせるための手立てや働きかけ
 - ▼もとにする数、1とみるという押さえが弱かった。
 - ▼テープ図のかき方が様々であったため、最初の部分で示したり、子どものテープ図を取り上げたりしながら考えさせていく。テープ図の活用とテープ図を使うよさに気づかせたい。
 - ▼子どもの考えの正解を取り上げるのではなく、多様な考えの中から共通点や差異点を子ども達で言い合う、見つけていく学習展開にしたい。(子どもの意見を貼り出し、思考の場を子ども達に任せる。)

藤原指導主事より(本単元・本時の学びのポイント)

○倍の見方

- どのような場面で倍、割合を求め、使うかを4年生で身に付けさせたい。⇒学習指導要領が改訂し、4年生で新設の単元であり、高学年の割合につながる。
- 倍と割合はちがうことをしっかり押さえたい。(倍は2つの数量、割合は4つの数量で捉える。)割合が何を表しているのか押さえ、2倍と3倍では、3倍の方が大きいではなく、2倍のびた、3倍のびたでは、3倍のびる方が大きいとのび率に目を向けさせたい。割合⇒比べるときに見る見方
- 「同じになっている」何が同じなのか考えさせ、差では無理だということを押さえる必要があった。
- 事象を観察することが大切であり、もとになる数(1)をしっかり押さえて説明させたい。

○めあて

- 算数の学習過程のA1、A2の問いやめあては、子どもとつくりたい。

○対話

- 目的のある対話にしていきたい。答え合わせではなく、問題解決するためのよりよい対話にしていきたい。

今回の授業は、令和4年度全国学力・学習状況調査結果において正答率が低かった割合の問題につながる学習でした。計算はできても、考え方に弱さが見られるため、下学年から図を活用し、そのよさにも気付けるようにしていきたいですね。

津田先生の授業では、学習規律のしっかりとした定着の上に、子どもたちの学習へ向かう姿勢や、協働的に学ぼうとする姿がたくさん見られていました。今回の研究授業からの学びである様々な子ども達の考えを取り上げ、子どもの発言をつないで問題解決に向かう授業を目指してみんなで取り組んでいきましょう。